

本当に諏訪湖に浮いていた城

studio クルワ

日本の城を楽しむ

YouTube かいのすけ歴史



「諏訪高島城」すわたかしまじょう
長野県諏訪市高島1丁目20-1



城跡の様子は？



街中にあり基本的に人は多いです。じっくり撮影したい場合は混雑時間を避けるのが良いです。いちばんの撮影ポイントである冠木門付近は南に向かっての撮影となるため、午前中に済ませないと逆光になります。平城で高低差はほぼなし。いちばんの高低差は天守内部の階段です。駐車場は天守近くに無料がありますが、スペースが狭く混雑時は無理かも。公園の反対側に市役所の駐車場があり、そこも無料で利用できます。トイレは公園内諏訪護国神社付近にあり。大手門跡付近までの散策は徒歩でも可能ですが、先の温泉寺などは車での移動をおすすめします。

見学のポイント

- 1 天守内部は資料館と割り切る
- 2 天守三階から干拓される前の諏訪湖をイメージ
- 3 大手門跡まで足を運べば楽しさが一気に倍増！

諏訪の浮城は本当の話？

長野県諏訪市にある高島城です。大きな破風が目立つ天守がとてもカッコイイですね。ところでこの高島城の別名は「諏訪の浮城」。(日本三大湖城(松江城・膳所城)の一つにも数えられている)昔は諏訪湖にぽっかり浮かんでいたと言われていました。ですが、現在高島城を訪れてみると周りはすべて市街地。一部水堀がありますが、とても浮城なんて想像できない状態になっています。

口コミでは「こじんまりしている」とか「天守がコンクリートで残念」なんてものが。「この城を見るために諏訪まで行くのもつたいない」なんて厳しい評価もみられるのですが、いろいろ調べてみると高島城はかなり魅力的な城。そして、昔は本当に諏訪湖に浮いていたようなのです。

城の一番奥へ

諏訪高島城は、上諏訪の街の中にあリます。上諏訪の駅から徒歩20分ほど、車なら



左 高島城本丸北側からの様子。左から角櫓・冠木門・冠木橋・天守(すべて再建)。
上 天守西面の様子。

高島城天守古写真

独立式望楼型の3重5階。
下に入母屋、その上に2重の望楼が乗る形。
二重目の東西と三重目の南北に破風が設けられ、
格式高い華頭窓も使われている。
現在の天守はとは窓の数や大きさが異なる。
当時の屋根は「柿葺き」。



右下 天守入口からの眺め
遠くに諏訪湖を望むことができます
のですが、高さが足りなくて
見えませんね。天守三階まで登
れば見ることができます。すぐ
近くに見るのが高島公園の駐車
場。歩いて1分もかかりません。
付近は住宅街となっていますが
昔は湖の中だったのです。

左下 再建された高島城天守
(古写真と比較しやすいよう背
景を無くしています。)

解体前に撮影された天守。少し角度が違うが、下の画像と比べると違いがわかるでしょうか。



独立式望楼型の三重五階。下に入母屋、

その上に二重の望楼が乗る形。二重目の東
西と三重目の南北に破風が設けられ、格式
高い華頭窓も使われています。現在の天守
はもとのものと比べると窓の数や大きさが
違います。また先ほど眺めを楽しんだバル
コニーのようなものは無く、さらに屋根の
作りも違いました。それでも当時の天守の
様子を知るに十分。撮影したくなる魅力的
な姿をしています。古い写真が残っていて
ホントよかったです。

水に浮かぶ城の痕跡は？

外から櫓を眺め公園内を散策し、天守に
登れば高島城観光は大体終わり。つまらな
くはないですが、コメントにある通り「こ
れだけのために来るのはちよつとな・・・」
と思う気持ちはなんとなくわかります。特
に「水に浮かぶ城」については全然そのよ
うな雰囲気は感じられませんし、肝心の諏
訪湖もろくに見えません。「諏訪の浮城」
の話はどうなっているのでしょうか。

昔の高島城の様子……。それがわかる場所が本丸の公園内にあるので行ってみましょう。天守の南側にやってきました。これは高島城三の丸御殿に使われていた門で、昭和63年にこの場所に移築されました。現代まで残る高島城の貴重な遺構です。注目していただきたいのはこの門をくぐった先の様子。公園の外に続く道がグッと下っているのがわかるでしょうか。高島城はほぼ平らな場所に築かれた城。高低差なんてあるはずはないのですが、これはいったいどういうことでしょうか。実はこの先の低い場所は、湖だったのです。

高島公園の僅かな高低差

高島城が使われていた頃、ここには別の門が建っていました。その名は「川戸門」（かわどもん川渡門）。字が示す通り、水へ向かう門です。高島城の様子を描いた絵図で確認してみましょう。公園となっている本丸部分はこので、天守が描かれています。城の西側がすべて水ですね。



左 もともと三ノ丸御殿で使われていたと言われる門。高島公園内に移築されています。現在まで残る高島城の貴重な建物ですね。

右 移築門の先の様子。平らな場所にある城なのにグッと下り坂になっています。高島城は諏訪湖に伸びる微高地上に築かれていました。この先に湖がせまっていたのですね。

これが当時城のすぐ隣まで迫っていた諏訪湖です。この門は陸地ではなく湖に開かれた門だったのです。ここからは船に乗って湖上に出ることができると言われています。ということは私が歩いている公園の西側の道路は湖の中ということですね。今の様子からは全く信じられませんが、高島城の天守は諏訪湖に向かって張り出していたのですね。

難工事だった高島城

高島城が築かれたのは1592年のこと。関東の北条家を滅ぼした豊臣秀吉はその旧領を徳川家康に与えるとともに、諏訪に信頼できる家臣、日根野高吉を入れます。豊臣と徳川の間で戦いが起こったとき、諏訪が重要な拠点となると考えたからです。

高吉は諏訪湖に突き出すように伸びる細長い島のような場所に目を付け、新しい城を築き始めます。湖の側なので地盤は悪く石垣を築くのもかなり大変だったよ



御枕屏風高島城部分 高島城天守に加筆作成

う。しかし高吉は築城技術に長けており、様々な工夫をこらして湖のほとりに見事な城を築いていったのです。一方、工事に駆り出される住民の負担はかなり大きく、村ごと皆で逃げてしまうこともあったようです。着工から約7年、1598年に城は完成。こうして諏訪の浮城と呼ばれる美しい城が誕生します。

城にどうやって

入ったの？

高島城の縄張りは北から南に向かって曲輪を一直線に並べるタイプ。諏訪湖以外の方向も川が入り組む複雑な地形をしています。おそらく城の周りは湿地が広がり、人が自由に歩けるような状態ではなかったのでしょう。そして注目したいのは城に入るルート。一体どこから入ればよいかかわかりますか？

高島城の大手は城の北側に開かれています。これにつながる一本の細い道が城とそとの外をつないでいたのです。



左 資料館内にある高吉の像。築城技術に長けていたようです。
右 後に高島城天守は大がかりな修理が行われることに。そのとき天守を移動させたと言われています。

この「縄手」と呼ばれる道。周囲を水に囲まれまるで橋のよう。しかもぐにやっと曲がっています。その先には門と櫓が立ち並び、城の入口を固く守っていたのです。ここを封鎖すれば高島城にはどこからも近づくことができません。まさに水に浮かぶ城だったのです。

登城口を探して城下町へ

この道は現在でもその跡をたどることができます。地図で見ると上諏訪駅から南へ、高島城方面に向かう通りがあります。途中で右・左と折れ曲がっているのがわかるでしょうか。「並木通り」と呼ばれる場所です。道の両側には大きな木が並んでいます。これは昔からここにあったものでしょうか。絵図で確認すると縄手には木があるのがわかります。この道は現在それほど広くはありません。また車の場合高島城方面からの一方通行になっているので、徒歩での見学になります。高島城の駐車場からのんびり歩いて15分ほどなので、是非足を運んでみて下さい。

大手門跡を過ぎて左に曲がると橋が見えてきます。下を流れるのは衣之渡川（えのどがわ）。そしてその先が三の丸です。三の丸には御殿や家老屋敷がありました。先ほど高島公園で見た門はここにあったのですね。

味噌の蔵らしき建物の横を通り過ぎると道がクラクシ、また川が見えてきます。ここから先が二の丸です。橋のたもとに泉のようなものがあります。手を出してみると温かい。これは温泉です。上諏訪は温泉地としても有名。高島城は城内に温泉がある城としても知られています。もともとは殿様が使っていたのですが、時代が下って一般にも開放され、このあたりに住む方々もの方々も利用したのでしょうか。二の丸には藩校「長善館」（ちょうぜんかん）が建てられました。足を進めれば高島城本丸はもうすぐ。天守と櫓が見えてきます。どうでしょうか、城下から伸びる細長い島のよな地形と、それに合わせて配置された縄張りがいメージできたでしょうか・・・。



左 高島城古絵図に描かれた大手に続く細い道。並木になっているのがわかりますね。

上 大手門があったと言われる場所。ちゃんと道がカーブして並木があって絵図のとおり！そのままの姿で残っているのかも！と嬉しくなりますが・・・。



上 途中にある味噌のお店。
右 川のすぐそばから温泉がわいています。



左 上諏訪駅から高島城までのルート。オレンジの部分が残す道。
右 ニノ丸のほりにあるそれらしい石積み。港の跡かな・・・なんて確認しましたが、絵図には何も描かれていませんので後世の石垣かと。しかし散策が一気に盛り上がったポイントです。

隔絶された南の丸

本丸の南側に残る入口。土戸門の跡です。この先にも曲輪が続き、武家屋敷などが並んでいたと考えられています。高島城の大手からもっとも遠い、島でいえば一番奥。人が簡単に近づくことができないこの場所に四角く隔てられた曲輪がありました。それが南の丸。徳川家康六男、松平忠輝が過ごした場所です。なぜ徳川一門のすごい人がここにいたのか。忠輝は越後高田の城主でしたが振る舞いが悪く、二代将軍秀忠のとき改易されてしまいます。はじめ飛騨の金森家に流されるのですが、金森家では忠輝の扱いに苦労したよう。それもあつてか後に諏訪に移されます。諏訪家では高島城の一番奥に南の丸を増築し、忠輝を住ませたと伝わります。外の世界と隔絶されたような屋敷。外出も来客も厳しく監視されていたのでしょうか。諏訪市役所の側に忠輝を祀る神社があります。忠輝は城下の人たちと交流したり諏訪湖で泳ぐなどある程度の自由はあったよう。しかしかつての大大名。その虚しさを埋めるのに、

